



～ 栄えある受賞者の皆様 ～

夕陽

函館市支部会報

発行所
夕陽会 函館市支部
函館市立駒場小学校
印刷/株島本印刷



勇気づけられた先輩の言葉

夕陽会函館市支部 副支部長 寺本 公彦
(昭和六十二年卒)

二〇一八年は、夕陽会が百周年という大きな節目を迎えた年でした。そして、二〇一九年、時代は平成から新たな元号へと移り変わり、夕陽会も一〇一年目の新しい歴史を踏み出します。

西函館市内では、今年度も多くの新採用教員が活躍しています。立场上、一年次の初任段階教員研修に立ち合う機会もあり、若い先生方の真剣な眼差しに大きな刺激を受けています。そんな若い先生方に私は「子どもに寄り添う」ことの大切さを話してきました。

「人生で受けた借りを後輩に返すこと」の大切さを述べています。

「その際、押しつけとにならない配慮も必要であろう。同時に受け手にも謙虚に学ぶ姿勢が求められる」とも述べています。後輩へ伝えることの大切さを学ばせて頂いた言葉であったと思っています。

昨年一月、夕陽会の大先輩であり、函館市の教育長も務められた多賀谷智先生がお亡くなりになりました。多くの方々が大きな悲しみに包まれるとともに、これまでのご恩に感謝の意を強くしたことを思います。その多賀谷先生から頂いた「力まず、怯まず」という言葉が、私にとつては大きな勇気を頂いた言葉として忘れられません。

「見えていない」と題して、
『：「見える」とは、いろいろな試行錯誤、経験、体験を通して「知る」ことである。「事実」は「真実」ではない。より多くの人々に接し視野を広くすることが必要である。現象の背景にあるものを、「根っ子」を見通す「目」を持ちたいものである。』と述べています。子どもと向き合う教員として強く心に残っている言葉のひとつです。

また、第二一六号「夕陽会報」の巻頭言で前夕陽会会長の橋田恭一先生は「恩送り」という言葉を用いて、「先輩諸氏からいただいた教えを後輩に託すこと」

インターネットの普及や人工知能の発達により、社会は急速に大きく変わってきています。そのような中でも、夕陽の同窓としてのつながり、教員としての同僚性は大切であり、変わってはいけないものであると思います。

夕陽会員の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたしますとともに、これからの夕陽会を支える若き会員の皆さんにエールを送りながら、一〇一年目を迎えた夕陽会のさらなる発展を願っております。



新しい時代

夕陽会本部 幹事長 白川 卓 (平成五年卒)

「人はなぜ働くのか」

二十年ほど前に、中学二年生のクラスで行った進路指導の授業の一コマです。「望ましい職業観の育成」をめあてに、北海道新聞のコラム「しごと・生きる」を切り抜き、個々の子どもたちが、自分の興味関心に応じた職業について、その仕事に対する考え方、その人の生き方にふれながら「働くことの意義」について考えを深める学習でした。その生徒たちも中学校を卒業し、今では三十代半ばとなつていきます。どのような職業につき、どのような生き方をしているのでしょうか。

平成二十九・三十年改訂の新しい学習指導要領では、その改訂の経緯において人工知能(AI)の急速な進化とそれによる社会の変化への対応に触れています。いわゆるSociety.0への対応です。

Society.0と呼ばれる新しい時代は、AI、IoT、ビッグデータが私たちの生活に革命をもたらすと言われています。AIの登場、進化によって今ある職業の半分は十〜二十年のうちになくなるというショッキングな論文が話題にもなりました。また、既存の職業が新しい職業にとつてかわるのでなく、二十〜三十年後には、そもそも人間が行う仕事が行くなくなり、全人口の一割程度しか働かない社会になるといふ予測もあります。

「なぜ勉強するのか」

こんな子どもたちの問いに私たち大人はどのように応えようとするのでしょうか。社会の変化が未だかつてないほど急速且つ大きく変化する時代において、「将来憧れの職業に就くために勉強するんだよ。自分の将来のためなんだよ。」という理由は崩れてしまおうでしょう。

AIが社会を大きく変え、人間の内面まで変革が求められる中、人間にとつて最も大切なのは「自分を知ること、自分をよく理解すること」であり、そのためには「学びつづけること」が必要とも言われています。

「学ぶこと」は、人間だけがもつ「特権」でしたが、その「特権」をAIという機械が獲得しました。考えてみると定義にもよりますが「学ぶこと」は、人間だけでなく多くの生物に見られるともいいます。一方「学ぶこと」と対になる「教えること」の行為は、人間だけが唯一行えるものだといえます。

「人はなぜ学ぶのか」
次世代の学ぶ意識から、次世代の教育、次世代の学校はどのように変わっていくのでしょうか。教育が人間らしく生きるためにますます重要となることは間違いないことでしょう。

受賞者ご芳名一覽 (敬称略・順不同)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 瑞宝双光章 | 八木橋哲郎 (昭和26年卒) |
| 瑞宝双光章 | 青木潔 (昭和28年卒) |
| 瑞宝双光章 | 山崎望 (昭和28年卒) |
| 文部科学大臣優秀教職員表彰 | 佐々木壮一 (平成8年卒) |
| 北海道教育功績者表彰 | 片桐由博 (昭和57年卒) |
| 函館市市民貢献賞(教育文化功労) | 円山博司 (昭和29年卒) |
| 函館市体育協会スポーツ功労賞 | 絹野重治 (昭和40年卒) |
| 函館市文化団体協議会白鳳章 | 大川富美男(瀟湖) (昭和45年卒) |

受賞おめでとうございます

平成30年度 夕陽会函館市支部受賞祝賀会ならびに会員懇親会
平成31年2月16日(土) 於フォーポイントバイシエラトン函館



よろこびの言葉



同窓の絆に感謝

青木 潔
(昭和二十八年卒)

この度は、平成三十年秋の叙勲に際し、はからずも瑞宝双光章の英に浴しましたところ、早速夕陽会本部・函館市支部はじめ多くの先輩や同僚からご懇篤なご祝意を頂戴いたしましたに誠に有り難く厚く御礼申し上げます。これもひとえに皆様との幸運な出会いと長年にわたる心温かいご指導ご支援の賜と深く感謝申し上げます。今後は、この荣誉に恥じることはないよう一層精励しいささかなりともご芳情に報いたいと存じますので、何卒倍旧のご厚誼ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。想えば、昭和五年に駒ヶ岳山麓の酪農家の五男として誕生し、終戦の年に師範予科への合格通知を手にしましたが、当時の学生は十勝方面へ援農にかり出されておりました。私は家業の酪農の手伝いをする事になり家業の手伝いをしておりましたら、師範本科生だった兄が、S教授から「弟の潔くんも師範に来るように」と、誘いがあり、昭和二十二年に予科に入学し、その後学芸大学に進んで二十八年に英語と体育の教員免許証を手にし、初赴任は八雲中学校、渡島管内では中心校のひとつで、優秀な先輩方が揃った学校で大いに鍛えられ、二校目は柏野小学校で、この学校も市内では「第二附属」と言われるほどの優秀な先輩方が揃った学校で、ここでも大いに鍛えられ、その後の後中学校を始め旭中・石倉中・岩部小中・港中・校長としての鎌歌小・新川中でも素晴らしい教職員に恵まれて感謝。退職後も夕陽会の先輩の後を引き受けて「道教互の結婚相談」「函教互の役員として海外教育支援活動」「函館マラソンの手伝い」「ソフトバレー連盟役員」などなどで多忙な中にも「健康長寿」をモットーに、米寿も無事に通過し今回の授賞は、まさに皆様のご支援のお陰以外のなにもでもありません。感謝・感謝です。

末筆になりましたが、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。お礼の挨拶とさせていただきます。



人の絆、人の和に感謝

円山 博司
(昭和二十九年卒)

この度、函館市より「函館市市民貢献賞(教育文化功勞)」の表彰を賜り身に余る光栄と受賞の重みを実感させられました。この受賞は多くの皆様のお力添えやご厚情によるものであり、御礼を申し上げます。教頭時代に、日本経団連の土光敏夫会長から声をかけられ、教育界とは違う経団連にお世話になることになりました。土光会長の「凛とした背中の中の現場の達人」「難題を成し遂げた国民的英雄」のひと言には感動し、私の心に革命が起こりました。経団連の情報や発刊物、そして経営者の方々の言動を目の当たりにする度に、己の視野の狭さ、器の小ささ、経営観の格差などを痛感しました。経団連のエコノミストであり、経営の勉学に励んでいたが、知れば知るほど奥が深いことを悟られました。変わる社会、変わる教育に対応した新しい学校づくりの視座から、平成三年度全国連合小学校長研究協議会鳥取大会で、二十一世紀の未来を展望した研究発表題「社会の変化に対応した学校経営の改善戦略」を発表しましたところ、多くの校長から質問があり、やりがいを感じました。新聞社や出版社から注目されて声をかけられました。

平成五年に、函館教育経営研究所(所長円山)を三十名の同志で設立。世界・日本の教育の動向や学校経営に関する調査・研修・相談活動の推進に取り組みすることにしました。所員自ら「意識改革と発想転換、創出挑戦」に重点を置き、専門家や有識者による講演会、学校経営実務研修講座、研究紀要や情報誌の発信などを続けて、二十六年になります。平成二十四年度からは、小笠原愈所長を要として所員一同が切磋琢磨して、スクールリーダーの資質と経営力のアップに大きな成果をあげています。私を導き励ましてくださった恩師、行政の方々、そして夕陽会の皆様方に対して心から感謝の言葉を捧げます。



函館市体育協会スポーツ功勞賞を受賞して

絹野 重治
(昭和四十年卒)

この度、函館市体育協会スポーツ功勞賞の荣誉を賜りました。身に余る光栄です。これもひとえに多くの方々からの絶大なるご支援やご厚情によるものと心から感謝すると共に御礼を申し上げます。私は、小学校と中学校の理科と保健体育の免許を取得し、教員生活に入りました。退職まで主として理科教育に大きくウエイトを置いて教育活動を送って来ました。一方、中学校からバレーボール部に所属していた関係もあつて、赴任した各学校では、バレー部を立ち上げて活動を行って来ました。函館の小学校に転動してからはスポーツ少年団の活動として位置づけ、バレーボールの楽しさを児童に味わってもらいました。やがて函館近郊の小学校にもバレーボールを指導できる先生方が多くなってきました。そこで、前函館バレーボール協会会長を務められた尾島梯介先生のご指導をいただき、少年団活動を離れ、函館小学生バレーボール連盟という組織を立ち上げました。今年で創立三〇周年を迎えており、安定した活動を続けております。さらに、日本に小学生から老人まで誰もが楽しめるソフトバレーボールというスポーツが誕生しました。これも函館バレーボール協会指導部長をされておられました故高木徹先生を中心にして、北海道でいち早く函館ソフトバレーボール連盟を誕生させました。今では北海道で一番大きな組織として活動しており、二〇二〇年には全国大会を開催する力量を持つよう成長しています。

結びに、夕陽会の益々の発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、感謝と御礼の言葉といたします。



継続の重み

大川 富美男

(昭和四十五年卒)

この度、函館市文化団体協議会白鳳章の榮譽を賜り身に余る光栄です。これまで自分の決めた道を地道に歩んできただけです。このような賞をいただけると思ってもみませんでした。今回の受賞は、日頃から励まし支えてくださっている先生方や仲間の皆様を始め、気付かない多くの方々の応援があったからこそいた、た、く、こ、が、で、き、ま、し、た。感謝の気持ちでいっぱいです。

大学時代からお世話になつていられる高橋海堂先生より「長くやっているといいこともあるね」と言葉を掛けていただき、あらためて継続の重みを感じました。その時、附属中での教育実習で、実習主任の笹野尚明先生が「何か一つでも得意なものをもつことは自信につながり、将来役に立つ」と話されたことが心を過りました。

卒業から五十年、当然のごとくやってきた書活動、好きなことを続けられた喜びを感じております。継続の重みは、これまでお世話になつた多くの方々の支援の重さでもありません。

昭和四十五年北竜町の小中併置校を振り出しに、小学校・中学校・養護学校、そして非常勤講師として高等学校・大学、更には書道講座などで指導をしてきました。その中で単なる技術の指導よりもっと大切な書く喜び、書きたいという気持ちや感動を逆に教えられました。

書作では、言葉選びから草稿を練り、作品へと仕上げ、ていくその過程は楽しいのですが、締め切りが近づくと悪戦苦闘の毎日です。

錬成会や研修会などで多くの先生から指導助言、時には激励などいただきますが、特に大学での書道研究家の仲間には、夕陽書道展や大学の記念展でも積極的に応援をいただきありがたいことです。

これからも気力・体力の続く限り楽しんでいきます。そして少しでも書道の振興にお手伝いできれば幸いです。



北海道教育功績者表彰を受賞して

片桐 由博

(昭和五十七年卒)

この度、平成三十年度北海道教育功績者表彰の栄に浴することとなりました。本当に身に余る光栄です。素晴らしい功績を残された教育関係者の方々が、ほかに多くいらつしやる中、私のような者が受賞してよいものか大変戸惑いを感じました。

受賞に際しましては、藤川会長様をはじめ、同窓の皆様方から心温まるお祝いや励ましの言葉をいただきました。十二月の表彰式では、厳肅な雰囲気の中、北海道教育委員会教育長佐藤嘉大様より表彰を賜りました。

振り返りますと、教職生活のスタートは後志管内の複式校でした。「わたり・ずらし」の授業、そして全校児童六名の学校では、学校行事は「地域をあげて」行ったこと、とにかく「地域の方々とのつながり」の大切さを知りました。

そして函館市で二十五年の教職生活。困った時に近くで支えてくださったのは夕陽の先輩をはじめとする皆様方でした。さらに、先輩方は社会人としての振る舞いや地域に根ざした教員の使命についても教えてくださいます。私が今、こうして教員生活を終えることができるのも周囲に居て、声をかけてくださった方々のお陰であり、本当に感謝しております。

特に最後の年に行われた「第七十回全国連合小学校長会研究協議会北海道大会」の折には、夕陽の先輩の皆様のご協力をいただき、大会を成功裡に終えることができました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。今後ともそのご厚情に答えるべく、精進してまいりたいと思っております。

結びになりますが、夕陽会の今後ますますのご発展と会員の皆様のご活躍とご多幸を祈念し、感謝とお礼の言葉とさせていただきます。



夕陽の絆に感謝して

佐々木 壮一

(平成八年卒)

この度、平成三十年度文部科学大臣優秀教職員表彰の栄に浴することになり、一月十五日東京大学安田講堂にて厳肅な雰囲気の中、文部科学大臣柴山昌彦様より、表彰を賜りました。私のような浅学非才の者にとりまして身に余る光栄であります。これもひとえに、渡島教育局函館市教育委員会をはじめ多くの先輩や同僚、とりわけ夕陽会の皆様のおかげと心から感謝申し上げます。

また、受賞に際しまして、宇佐美支部長をはじめ、同窓の諸先輩や後輩の皆様方より心温まるお祝いのお言葉をいただきました。同窓の絆を深く感じ、万感胸に迫る思いでありました。

私は、現在深堀中学校で美術担当として勤務しております。明るく落ち着いた雰囲気の子どもたち、校長先生をはじめ活気溢れる仲間、生まれ日々恵まれた日々を送っております。また、美術教師として、所属の函館造形教育研究会では、二年後に全道大会を控え、運営準備に追われているところです。函館の造形教育を全道・全国に発信していけたらと考えております。

今回の表彰式で、青山学院大学陸上競技部原監督の記念公演がありました。その中で、自分が感銘を受けた三つの行動指針について紹介したいと思います。

「一、感動を人からもらうのではなく、感動を与えることのできる人間になろう。二、今日のことは今日やろう。明日はまた、明日やるべきことがある。三、人間の能力に大きな差はない。あるとすればそれは熱意の差だ。」

まさに「初心忘れるべからず」。今回の受賞に満足せず、今後も一層の精進を重ねて、熱意をもって子どもたちのために力を尽くして参りたいという思いを強くしました。結びに、夕陽会の今後益々のご発展と会員の皆様のご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶といたします。

はこだて療育・自立支援センター(函館市福祉部)へ療育用具を寄贈

地域貢献事業

平成二十二年の函館奉行所開設時に車椅子を寄贈して以来、毎年継続している地域貢献事業のご報告です。

今年度は函館市福祉部・はこだて療育・自立支援センターへ療育用具を寄贈しました。

はこだて療育・自立支援センターは、市立障がい児・障がい者施設であった青柳学園、あおば学園、ともえ学園の三園を統合整備し、平成二十四年四月から共用を開始しており、これまで各園で実施してきた事業を継続するとともに、発達障がい専門医の配置により療育体制を強化するなど、統合によるメリットを生かし、障がい児・障がい者の福祉を推進する中核的な機能を有する施設として運営しております。

施設内には、診療所で診療・検査・リハビリテーションを行うことが出来るほか、医療型児童発達支援センター「はぐみ」、児童発達支援事業所「つぼみ」、生活介護事業所「あおやぎ」、生活介護事業所「ともえ」など、ライフステージにあった支援体制を整備しており、あそびのひろばゆうing等も開催しております。

今回は、このうち主に幼児や児童などが利用する、踏み台運動のための「ジョイントステップブロック」、数の認識力のトレーニングに使用する「高さ比べベグ」、ブックスタンドのほか、パズルなどの訓

練用を使用可能な「多目的傾斜ボード」の三種の用具を寄贈いたしました。

贈呈式は、二月二十日にははこだて療育・自立支援センターで行われ、宇佐美支部長より、平井尚子函館市福祉部長へ目録が手渡されました。

函館市支部では、函館市と母校の発展のために、今後も地域貢献事業を継続していく予定です。



お詫びと訂正

函館市支部会報「夕陽」第九十四号において平成三十年度の転入会員紹介で潮光中学校池田教頭先生のお名前が掲載されておりませんでした。大変申し訳ありません。

関係の皆様へご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げますとともにここに訂正いたします。

潮光中学校 池田浩司教頭先生

(平成四年卒)

福島中学校より転入

学校・職場紹介

函館市立北中学校



本校は、函館市東部地区の宅地化が進む中、昭和五十七年に開校した市内では比較的新しい学校です。学校のある山の手地区は、開校当時は分譲が始まったばかりの新興住宅街で幹線道路から学校を見渡すこともできたのですが、今では校舎のすぐそばまで住宅が密集した住宅地となっています。しかし校歌にもあるように、北の台地に位置する校舎の四階からは、遠くに函館山とそこから市街地が広がる雄大な景観を一望することができます。

落ち着いた学習環境のもと着実な教育実践が行われ、過去には全道理科教育研究大会や全道進路指導研究大会などの会場校となったこともあります。また平成十三年の開校二十周年の際には記念行事の一環として生徒の手によるミュージカル「ライオンキング」を芸術ホールで上演するなどの取り組みが行われました。

校区は山の手地区全域と東山・日吉町の一部分からなりそう広くはありませんが、開校当時から山の手町会との結びつきは強く、毎年春秋に行われる「山の手クリーニングライン作戦」には、全校生徒の約七割がボランティアとして参加するなど、地域とのつながりを意識した活動を伝統的に継続しているところです。

ピーク時の昭和六十三年頃には、二十学級・約八百人の生徒数を数えた本校ですが、少子化の波の中、現在では八学級・約二百名の規模となっています。そんな中生徒たちは、「鷹揚・素直」という開校以来の気風を受け継ぎつつ、学習だけでなく学校行事や部活動、生徒会活動にもものびのびと取り組んでいます。

校訓の「向上・協調・健康」をベースとして、現在は「自ら考え 自ら学び 主体的に行動する生徒の育成」を学校教育目標に教職員は日々の教育活動に邁進していますが、今年度から二年間、渡島教育局の研究指定校、函館市の研究モデル校の指定を受けることとなりました。今までの実践や本校の特色を生かしつつ、授業改善を中心に小中連携に基づく九年間の学びの研究を進めることで、よりよい十五才の姿の実現を目指してこれからも学校づくりを進めていきたいと考えております。

■会員紹介

- 校長 滝澤 智子(昭和五十七年卒)
- 教諭 笠松 英治(昭和六十三年卒)
- 成村 田村村牧(平成五年卒)
- 井下 貴光(平成六年卒)
- 鈴木 亮(平成八年卒)
- 渡辺 卓(平成九年卒)
- 小阪 忠弘(平成二十二年修)
- 岡友 紀(平成十六年卒)
- 小林 元貴(平成十八年卒)

函館市立深堀小学校



本校は昭和四十六年二月に設立され、四月の開校式では十二学級で始まりましたが、三・四・五年生は、十二月まで日吉が丘小学校の校舎を借りていました。現在の児童数は二百四十二名。重点教育目標である『学び合う子』を目指して、子どもたちは、みんな笑顔であいさつを交わし合っています。今年度、児童委員会中心に取り組んでいる学校花いっぱい大賞では、フラワースマイル賞を受賞。函館市合同音楽祭では、各学年から希望者を募り、全校体制で協力し取り組み始めました。また、MOA美術館全国児童作品展では、これまでの実績が認められ、全国で六校のみ受賞の文部科学大臣学校奨励賞を受賞しました。住宅街にある本校は、通学路の安全が課題です。PTAや地域の方の力を借り、

登下校の交通安全指導や集団下校訓練などを行ったり、近隣の自動車学校の協力による交通安全教室を実施したりしながら、安全教育を進めています。

また、近隣のこども園や中学校、高校と連携した津波対応避難訓練や昭和五十六年から続けている函館聾学校との遠足やふれあい集会などを通じた交流も特色の一つです。さらには、近隣町会の心強いご支援のもと行っている昔の遊び体験をはじめ、情報モラル教室の実施、パビリニック選手を講師とした全校道徳の授業、国立天文台職員によるふれあい天文学、市内のレストランのシェフを招いての味覚の授業など、多方面から協力を得ながら教育活動を進めています。

今年度から新学習指導要領の移行が始まり、授業改善等が喫緊の課題となっています。本校では、新しい教科道徳について研究を進め、「考え、議論する道徳」の実現を目指してきました。これからも本校の良さ伝統を継承しつつ、教職員一丸となって子どもたちのために授業改善と教育実践に挑戦する気持ちを大切にす

■会員紹介

- 校長 山本良子(昭和六十年卒)
教頭 西函 函 純(昭和六十三年卒)
教諭 蛭 沢 伸 哉(昭和五十八年卒)
山内 祐 子(昭和五十八年卒)
中嶋 久(昭和五十八年卒)
沢田 明 美(昭和六十二年卒)
佐郷谷 晶 子(平成元年卒)
伊藤 礼 子(平成四年卒)
吉田 実千代(平成十年卒)
道幸 篤 史(平成十四年卒)
野中 史 菜(平成三十年卒)

函館市立高盛小学校



盛小学校の特色です。毎朝、町会の方々が通学路に立ち、子ども達の安全を見守ってくれています。夏には、たかもりまつりと呼ばれるPTAの行事もあります。地域の方によるもちつきも行われ、当日は大盛況です。学校と家庭、地域が連携しながら、同じ気持ちで子ども達の成長を見守っています。

現在、高盛小学校には、百五十七名の児童が在籍しています。朝には元気な挨拶が、集会のときには、澄み切った歌声が校舎に響いています。縦割り班活動も活発に行われ、高学年は低学年の手本となる態度を、低学年はこれからの高学年としての自覚を身につけていきます。このような異学年の交流や日々の活動を通して、子ども達は互いに思いやる心についても学んでいるところです。

本校は、昭和二年に公立大森小学校として開校しました。昭和九年の函館大火により校舎は全焼しましたが、翌年には新校舎が竣工。昭和十一年より函館市立高盛小学校と改称し、再び歩み始めました。今年度、開校九十一年を迎え、歴史と伝統を受け継ぐ学校です。

■会員紹介

- 校長 松村 淳(昭和五十六年卒)
教諭 丹 沢 豊(昭和五十七年卒)
近 藤 宏(昭和六十三年卒)
佐藤 充(平成五年卒)
成成 村 成 明 成 子(平成五年卒)
三浦 将 大(平成五年卒)
加賀谷 育 子(平成五年卒)
紺田 智(平成十年卒)
田中 麻 理(平成二十七年卒)

函館市立千代ヶ岱小学校



本校は、大正六年四月九日に開校されて以来、本年度で百一年の時を刻んできました。

「人を益し、世を利する」という志を持った、渡邊熊四郎氏により、現在地である当時の亀田村字千代ヶ岱に創立されました。

開校後、昭和三十四年から三十九年にかけて、七期にわたる工事が行われ、現在の校舎が出来上がりました。この時に本校のシンボルであった時計塔も作られました。「時を守り、大切にし、正しい人間の育成を目指す」との思いから、たくさんの方々の尽力で完成に至ったそうです。

現在に至るまで、歴史と伝統を受け継いできた卒業生は、一万五千人以上のものほります。しかしながら、戦後のピーク時は千五百人以上だった在籍児童数も、

閉校を迎える今年度は、百三十一名となっています。

児童数は減少しましたが、校歌に謳われている「真実の探求」という高い理想、校章のペンに込められている「向上心」が、長い歴史と伝統を支えてきました。

平成三十一年三月三十一日の本校閉校に先立って、十一月十七日に、閉校式が行われました。式には、来賓、同窓生、旧職員、保護者、地域の方々など、在校生もあわせて約三百名の皆様に出席していただきました。式では、本校の歴史をふり返るスライドショーとともに、全校児童が「呼びかけ」と「記念合唱」を披露しました。出席してくださった方々からは、式の雰囲気や児童の姿について、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。

千代ヶ岱小学校は、この三月でその長い歴史と伝統に幕を閉じます。今春からは、金堀小学校、高盛小学校とともに統合された大森浜小学校で、新たな学校生活をスタートさせます。

本校を巣立っていく児童には、この学校で多くの仲間とともに、たくさんの人達に見守られながら学校生活を送ることができたことへの感謝の気持ちを忘れずにいてほしいと思います。そして、新たな母校となる大森浜小学校で、千代ヶ岱小学校で学んだことを生かし、活躍していくことを期待しています。

■会員紹介

池野 教 史(昭和五十九年卒)

高村 正 治(昭和六十三年卒)

山上 正 純(平成二年卒)

伊藤 哲 朗(平成七年卒)

山形 もとこ(平成八年卒)

松浦 真木子(平成十年卒)

函館市立亀尾小学校



本校は明治二十五年、湯の川村字亀尾の小学校として開校しました。当時の校舎は教室が一つに職員室と炊事場という小さな作りで、体育館もなくトイレも別棟になっていました。昭和二十二年には中学校も開校し、亀尾小中学校となりました。児童生徒の増加に伴い昭和二十三年には二階建ての中学校独立校舎が新築され、小学校と中学校は別棟となりました。一時は三百五十名近くまで増えた児童生徒数も昭和三十二年をピークに減少に転じ、昭和四十一年に現在の三階建て鉄筋校舎が完成してからは再び小中学生が一つ屋根の下で学ぶこととなりました。自然豊かで農家の子女が多かった本校では、農業教育が盛んで、羊や牛、鶏などの家畜の飼育も行われていました。

現在、動物の飼育は行われていませんが、平成十二年に始まったそばの栽培学習は、地域の方を講師に、そばの種まきから収穫、そば打ちまでを学ぶ貴重な体験学習

として今も続いています。また、スポーツでの活躍も目覚ましく、サッカーや卓球、バレーボールなどの大会では何度も優秀な成績を収めてきました。多くの児童生徒が「勤儉力行」の校訓の下、勉学、運動、勤労に勤しみ、優秀な人材として本校から巣立っていきました。

しかしながら、少子化は時代の流れでもあり、平成に入ってからはいよいよ児童生徒数が百人を切るようになりました。小学校では複式化が進み、学級数も減ってきました。そのような中、平成十四年豊かな自然環境と少人数ならではの特色ある教育活動を掲げ「特認校制度」が始まりました。亀尾小中学校の魅力ある教育にაცოგაれて校区外から新たな仲間たちが通学するようになりました。一時は十名を超える特認生が通学していた時期もありましたが、残念ながら現在は在籍がありません。

平成二十八年度には、ついに亀尾中学校が戸倉中学校と統合し、平成二十九年度からは小学校のみとなりました。そして、今年度、百二十六年の長きにわたって多くの児童を育ててきた亀尾小学校の歴史もいよいよその幕を下ろすこととなりました。

素晴らしい教育環境に恵まれ、多くの人々に愛された亀尾小学校の閉校は誠に残念ですが、本校が培ってきた深い郷土愛と勤儉力行の精神は、必ずや次の世代へと引き継がれてゆくものと信じております。

■会員紹介

校長 盛 健(昭和五十九年卒)

教頭 石川 朋 実(平成二十年修)

教諭 米坂 和 之(平成二年卒)

西崎 佳寿子(平成十年卒)

養護 玉木 孝 子(昭和六十二年卒)

教諭 養護

訃報

鹿毛 哲雄氏(昭和28年卒)平成30年1月21日逝去
赤泊 昭吉氏(昭和23年卒)平成30年3月7日逝去
伊藤 万喜氏(昭和24年卒)平成30年3月22日逝去
高橋 豊氏(昭和41年卒)平成30年4月1日逝去
萩野 榮夫氏(昭和16年卒)平成30年4月13日逝去
上島 康信氏(昭和33年卒)平成30年5月18日逝去
伊藤 裕之氏(昭和35年卒)平成30年6月10日逝去
新藤 光男氏(昭和26年卒)平成30年6月19日逝去
加藤 一男氏(昭和24年卒)平成30年6月21日逝去
高市 茂氏(昭和28年卒)平成30年6月21日逝去
小川 榮悦氏(昭和30年卒)平成30年9月21日逝去
山本 益夫氏(昭和35年卒)平成30年10月28日逝去
竹田 隆裕氏(昭和39年卒)平成30年12月5日逝去
西山 純子氏(昭和33年卒)平成31年1月19日逝去
田口 純子氏(昭和33年卒)平成31年2月12日逝去
千葉 隆裕氏(昭和39年卒)平成31年2月22日逝去
敦沢 陽子氏(昭和24年卒)平成31年2月22日逝去
手塚 弘氏(昭和38年卒)平成31年2月22日逝去
小松 定一氏(昭和16年卒)逝去日不明

函館市支部前納会員(五十音順)

稲岡 敬人氏(昭和55年卒)
上野 恭一氏(昭和55年卒)
桑野 健子氏(昭和55年卒)
坂木 晴氏(昭和55年卒)
花田 讓氏(昭和55年卒)
松本 克氏(昭和55年卒)
毛利 和美氏(昭和55年卒)

夕陽会函館市支部 会務報告

平成30年度
夕陽会函館市支部事務局
○平成30年度総会
○新年度会員名簿作成
○事務局会議
○函館市支部管理職名簿作成
○慶弔業務
○支部別会員名簿提出
○支部総会(於 教育大学)

5月
○支部運営方針作成(支部便り発行計画作成)
16日(月) 函館市支部幹事会および新会員 転入会員・幹事懇親会案内発送

9月
18日(土) 鶴岡会渡島支部懇親会に支部長出席
○事務局会議

10日(木) 函館市支部新会員・転入会員・幹事懇親会(ホテル法華クラブ)
○新会員歓迎会へ宇佐美支部長参加

12日(土) 夕陽会渡島支部大懇親会・新会員歓迎会へ宇佐美支部長参加

25日(金) 第3回夕陽会本部役員会に支部長・幹事長出席
○費用徴収業務

26日(土) 100周年記念祝賀会案内発送
○本部総会・100周年記念祝賀会推進業務(本部との打合せ・しおり作成・名簿作成・実施計画作成等)
○事務局会議

1日(金) 夕陽会創立100周年記念事業実行委員会 祝賀会部・式典部合同部会
○慶弔業務

11日(月) 第4回本部役員会 顧問・参加者に支部長・顧問出席
夕陽会創立100周年記念祝賀会運営(ホテル函館ロイヤル)

23日(土) 夕陽会全国支部長会議・夕陽会本部総会に支部長・幹事長出席(ホテル函館ロイヤル)

7月
○慶弔業務
○管理職採用・昇任者に寄付依頼
○本部会報用100周年祝賀会原稿執筆依頼(支部長)

2日(月) 本部より100周年記念誌贈呈
○管理職採用・昇任者に寄付依頼発送
30日(月) 100周年記念祝賀会会計報告・今年度加入前納・年次会員名報告

8月
○支部会報第94号発行計画
○慶弔業務
○北海道通信 暑中見舞広告掲載(三支部)

18日(土) 本部より管理職名簿到着
○鶴岡会渡島支部懇親会に支部長出席

28日(金) 慶弔業務
○支部会報第94号作成
○支部会報第94号発行
○支部会報発送・本部会報移送業務

○事務局会議
○北海道通信 全連小研究協議会函館大会広告掲載(三支部)

○本部作成100周年記念会員名簿修正作業への協力
○支部会報第94号発送・本部会報第225号移送

30日(月) 第1回本部役員会に支部長出席
○祝賀会・会員懇親会運営計画

21日(金) 祝賀会・会員懇親会案内業務
○慶弔業務
○祝賀会・会員懇親会案内業務発送(受賞者 来賓、会員、現職会員、市役所職員、渡島支部五稜支会、特別支援学校支会等)

25日(火) 祝賀会・会員懇親会挨拶依頼(渡島教育局)
○北海道通信 年始挨拶広告掲載(三支部)

7日(月) 祝賀会・会員懇親会出席依頼(函館市庁舎)
○顧問会議案内状、役員会議案内状発送

○平成30年度顧問会議
○事務局(役員)会議
○支部会報第95号作成

○地域貢献事業
○函館市支部受賞祝賀会・会員懇親会主催

○慶弔業務
○函館市支部顧問会議
○函館市支部役員会

○夕陽会渡島支部勇退者激励感謝の会に支部長出席
○函館市支部受賞祝賀会・会員懇親会(フォーポイントバイシエラトン)

20日(水) 函館市に療育用具寄附(地域貢献事業)

22日(金) 支部会報95号発行、発送、本部会報226号移送
平成31年度総会案内・新年度会員名の作成依頼発送

3月
○新年度会員名簿作成依頼
○栄進者への祝意
○退職会員の前納会員移行案内
○会計監査

○平成31年度総会(4月13日・教育大学)準備及び案内
○支部会報発行、発送・本部会報移送業務

○本部役員会

○支部会報95号発行、発送、本部会報226号移送
平成31年度総会案内・新年度会員名の作成依頼発送

〔平成三十一年度 予告〕

◇函館市支部総会
日時 四月十三日(土)午前10時
会場 北海道教育大学函館校(十四番講義室)

①学校幹事は必ず出席してください。(都合の悪い場合は代理出席も可です)
②学校幹事の他に以下の会員数の出席をお願いいたします。
○会員数九名以下の学校は、幹事他に二名以上
○会員数十名以上の学校は、幹事他に二名以上

◇総会にて各学校へ人数分の、百周年記念夕陽会名簿(本部作成)をお渡しする予定です。

◇夕陽会本部総会・大懇親会
期 日 六月二十九日(土)
会 場 ホテル函館ロイヤル
本部総会 午後四時
大懇親会 午後五時三十分

事務局だより

支部会報第九十五号をお届けいたします。本会報の発行に際し、ご多用中にもかかわらず、玉稿を賜り、深く感謝申し上げます。紙面をお借りしまして御礼申し上げます。
前納会員制度のご案内を、三月で退職される会員の皆様へ差し上げております。便利なこの制度のご利用をお勧めいたします。
(夕陽会函館市支部幹事長 小濱 誠)